

障害者・家族生活一変

コロナ 通所自粛、ずっと自宅に

新型コロナウイルス感染が拡大する中で、障害のある人と家族の生活は一変しました。ハイリスクといわれる障害者を自宅でケアする家族の苦悩は。

(岩井亜紀)

「重い自閉症と知的障害 ことがある臈人さん。入院がある息子は、マスクの扱 時に、ベッドに拘束されたいも手洗いもきちんとでき 経験があります。」

24時間の見守り

「自宅に戻った1週目の臈人さんは、日常生活がガラリと変わり、「とつてもテ

ンションが高かった」と三子(66)は語ります。

コロナ感染拡大前まで息子の臈人さん(32)はグループホームで暮らし、そこから作業所に通っていましたが、「作業所を休ませることに不安がありました。コロナり患の不安の方が強かった」

言葉がなく、パニックになると自傷や他害にいたる

いまは週2回、ヘルパー

疲労困憊、長く続けば破綻も…

と1時間の散歩で気分転換しています。が、ときどき激しい自傷が出てしまします。

三耶子さんと夫(69)も疲労困憊(こんぱい)しています。水をたくさん飲みすぎる臈人さんが、嘔吐

(おうと)や意識障害などを引き起こす「水中毒」にならないよう24時間の見守りが必要だからです。

三耶子さんは「息子がベ



週末に一時帰宅したときに、動画を楽しむ大澤臈人さん(2月、堺市(大澤さん提供))

ッドに拘束されたときのことを思い出して頑張っています。とはいえ今後も長く続くような生活は破綻してしまおう」と苦悩を浮かべます。

唯一の楽しみも

重度心身障害者にとって新型コロナウイルスは脅威です。

気管支が閉じてしまう気

管軟化症の進行で人工呼吸器を装着する30歳の女性は、堺市の通所施設を週2回利用していました。緊急事態宣言の4月7日以降、施設側から「できるかぎり自宅待機を」と要請され、

「唯一の楽しみも我慢せざるを得ない状態」です。

週3回訪問入浴を利用。

看護師とヘルパー3人がかわります。母親(53)は「みなさん気をつけてください。帰られた後毎回、ドアノブと床を消毒します。大変です」と話

します。

訪問で、自分でたんを出す訓練を週3回受けています。訪問していたクリニックに感染者が出たため、訓練は取りやめに。「長期のお休みにならなければいいのだけれど…」と母親は不安を隠しません。

ダウン症で先天性心疾患がある女性(31)もグループホームから自宅に戻り、作業所も休んでいます。自宅には要介護4の祖父母もおり、デイサービスなどへの通所を自粛。母親がマスクや消毒液などが不足する中で3人を介護しています。

「毎日1人ずつ、機能訓練をかねて近所を散歩。晩には約2時間かけて入浴と、たくさんの支援をしていきます」と母親。「家族に感染者が出たらどうしたらいいのかわからない。何もできない娘1人が残ったら、どこが支援してくれるのか。不安が募るばかりです」